

5 時にホテルを出発し, 空港へ向かいました。バンコクを 8 時 15 分に発ち, 日本時間の 16 時 25 分に成田空港に到着しました。台風 17 号の影響で 18 時 40 分出発予定だった新千歳空港行の飛行機は 19 時 20 分に離陸し, 21 時に南千歳空港に着きました。それからバスで帯広畜産大学まで移動し, 24 時ころに到着し, 海外実習を終えました。一日かけて直線距離にして約 5000 キロ移動したので疲労はかなり蓄積されていましたが帯広に戻ってこられてほっとしました。帯広はタイと温度差が 10 度以上あるようで, 体にはこの寒さがとても応えます。

長かったような短かったようなタイでの実習でした。タイは中進国に位置付けられており, まさに発展している最中で, 多くのところでそのパワーを感じました。冷房は凍えるほど寒く, 会議室ではホットコーヒーが唯一の救いでした。交通事情は死亡原因の第二位になるほど悪く, 制限速度の看板はさみしげに道路わきに立っていました。2 週間で事故現場に 5 回ほど遭遇しました。市場では肉が大胆に売られています。夕飯は一食 30 バーツ(日本円で 75 円ほど)でおなか一杯食べることができ屋台で済ませる人が多いようです。

この研修旅行を振り返って, まず実感したことは, タイの東西と東北を周り, 施設や企業, 大学, 工場, 農村といった様々な場所を見学していく中で, やっていることが同じような産業にしても, 生産性や経営がまるで異なり, そこに力の格差を感じました。例えば, 農業なら, 一方では巨大な灌漑システムによって大きな農場を開き, もう一方では天水にだけ頼り, 一年に一回だけの収穫といった具合です。最も貧しいといわれる東北部にある, コンケン市のある村の一部はごみの集積所となっており, ゴミの山からプラスチックを集める人々多くおり, またバンコク市内にもごみ箱から換金できるものを探す人々がいました。しかし, 大きな工場ではタイ人やカンボジア人, ミャンマー人



発展するバンコク



タイの市場



農村で働く農民

が長時間、安い労働力で必死に働いていました。こういった格差が随所に見られました。発展の恩恵を受けるのはごく一部の人々のように思えました。また、産業だけに限らず、町や村の生活様式も大きく違っていました。幹線道路は綺麗に整備され、道沿いにはスーパーや多くのビルが立ち並ぶ一方で、一度脇道に入ると凸凹の道とゴミだまりやトタンでできた家が立ち並ぶ光景を何度も目の当たりにしました。開発が進む中で、今も変わらず以前の暮らしを営んでいる景色が混在している点に、中進国と呼ばれる所以を見出せたような気がします。

次に、様々な場所を訪問していく中で言葉の壁にぶつかりました。英語すらままならない状態でタイに乗り込みましたが、バンコクやその周辺では英語が使えるものの、地方に移動すると我々と同じで、英語があやふやな人か若しくはタイ語しか話せない人もおり、どのようにコミュニケーションをとってよいのか分からない場面に何度も遭遇しました。研修旅行も終盤になってくると変に英語を使うより、日本語対タイ語で話した方がうまくコミュニケーションがとれることに気づき、これはひとつ勉強になりました。潔くシンプルに物事を伝えることが大切で、そのためには不得意な英語よりも使い慣れた日本語の方が、相手にはニュアンスが伝わりやすいのだと思います。タイの英語は、我々が勉強してきた英語と比べると癖があり、発音やイントネーションが違うことも多くありました。普段、我々はアメリカのネイティブな英語などを使って勉強していると、それしかないように思えますが、一度日本を離れると聞きなれた英語はひとつもないのだと感じました。それはおろか、英語が話せない人々がいくらでもいるのだと思いました。

日本を出て海外に来なければ絶対に知ることのできない世界は、衣食住のすべてにおいて新しいことばかりで、この二週間は毎日が新鮮で驚きと興奮の日々でした。異文化を肌で感じることで、自分としてもまた一歩成長できたような気がします。